



学校だより

第7号ジャカルタ日本人学校
令和3年(2021年)11月1日
校長 緒方克行
TEL: 021-745-4130

末子配付

「なりたい自分」に「なれる自分」を近づける

「僕はエンジニアになりたいです」

「私は学校の先生になりたいです」

今、中学部3年生と高校受験に向けて面接の練習をしています。そこで、必ず「将来の夢は何ですか?」と質問しています。それぞれの子どもから、それぞれの回答が返ってきます。

「なりたい自分」像をもち、それに向かって歩いていくことは大切なことです。

そこで、キャリア教育について考えてみましょう。

保護者や教師など子どもたちを取り巻く大人も、子どもの将来に向けて考えていく必要があります。これは、大人の思いを押し付けるということではありません。夢をもてるように、そして夢の実現までのプロセスをしっかりともてるように支援していくことです。

子どもは、自分より年上の身近な大人を見ながら、「なりたい自分」像を描いていきます。小学生であると、野球やサッカーの試合を見ているうちに選手になる事を夢見ることがあります。父親や母親の仕事をする姿を見て、「なりたい自分」像を描く子どももいます。つまり知らず知らずのうちに親を将来の生き方のロールモデルとして見ているのです。是非、仕事をしている姿をしっかりと見せてあげてください。私が小学生の時に父親の働く会社に行く機会がありました。その時、家庭では見せない真面目な顔で会議をしている姿を見て、社会で働くとはどういうことかを、子ども心でも感じたことを覚えています。

また、「なりたい自分」を幅広く捉えられるように助言していくことも大切です。野球の選手を夢見ても誰でもなれるわけではありません。たとえなれなくても、グローブやバット作りなど、野球に関する職業が裾野の広いことをアドバイスしていくことで新たな「なりたい自分」像をもつことができます。

ここまで、職業について述べてきましたが、「なりたい自分」像には、生き方像ももってほしいものです。以前に受け持った子どもが、登校するときに、毎日歩道橋を清掃している方が、仕事ではなく地域みんなのためにやっていることを知ったとき、声を出して驚いていました。そして授業の感想には、自分もみんなのためにできることはないか考えたいと書いていました。

更に「なりたい自分」像がもてたとき、「なれる自分」を近づけるプロセスを子どもがわかることも大切なことです。「なりたい自分」像はなんとなくもっているが、具体的にどうすればいいかわからない、ということが多いです。これを支援することも周りの大人の大切な役割です。前任校に在籍していたブラジル人の子どもは、自動車エンジニアになりたいと考えていました。この子は日本語がまだよく読めませんでした。そこで、父親は車の構造が描かれた絵本を与え、数か月すると流ちょうに説明できるようになりました。

子どもが心に描いた「夢」は、まるで回り始めたコマのようです。どのタイミングで、どのくらいの力で手をかけ、回転を促すべきか、周りの大人が良く見て、さりげなく助けることで、倒れることなく回り続けて行くのではないのでしょうか。「なりたい自分」となって行かれるかは、周りの大人の支えも重要なのです。